

桐生商工会議所管内
景況調査報告書

第105回

(平成26年4～6月期)

平成26年8月
桐生商工会議所
桐生中小企業相談所

調 査 要 領

1. 調査目的 本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、情報化社会に対応した企業経営の指針とするとともに、今後の経営支援の参考に資することを目的とする。
2. 調査時点 平成26年6月1日
3. 調査期間 平成26年4～6月期
4. 調査対象企業数 396企業（うち回答企業数166企業）

5. 調査対象業種

①建設業（回答企業数19企業）

建築・大工業、土木業、管工事業、とび・コンクリート業、鉄骨・鉄筋業、電気工事業、左官・屋根業、塗装業、板金業、その他

②商業・サービス業（回答企業数84企業）

卸売業、小売業、飲食業、サービス業

③製造業

機械金属関連業（回答企業数35企業）

鉄鋼業、金属製品製造業、一般機械器具製造業、電気機械器具製造業、輸送用機械器具製造業、精密機械器具製造業、プラスチック製造業、その他

繊維工業（回答企業数28企業）

撚糸業、織物業、染色整理業、ニット・メリヤス業、レース業、縫製業、刺繍業、その他

DIとは、ディフュージョン・インデックス（D i f f u s i o n I n d x）の略で、このDIの変化を分析することにより経済動向の判断を行います。

このDIは、好転企業の割合から悪化企業の割合を差引き算出し、好転が悪化を上回る場合プラス（+）となり、逆に悪化が好転を上回る場合マイナス（-）となります。

DIについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要です。

1. 景況の動き

【業況DI】

今期の業況DIは、全体で**-29**。前期（-22）と比べ7ポイントのマイナスとなった。また前年同期（-30）比では1ポイントのプラスとなった。

業種別では、**建設業-16**（前期比-21、前年同期比+3）、**商業・サービス業-42**（前期比-2、前年同期比+3）、**機械金属製造業-15**（前期比-32、前年同期比-22）、**繊維製造業-19**（前期比+13、前年同期比+14）となった。

【採算DI】

今期の採算DIは全体で**-35**。前期（-29）比は-6ポイント、前年同期（-32）と比べると3ポイントのマイナスとなった。

業種別では、**建設業-28**（前期比-7、前年同期比-3）、**商業・サービス業-44**（前期比-1、前年同期比+4）、**機械金属製造業-26**（前期比-33、前年同期比-33）、**繊維製造業-26**（前期比+6、前年同期比+8）となっている。

【来期業況DI】

来期の業況予測DIは全体で**-24**。前期（-40）比は-16ポイント、前年同期（-26）と比べると2ポイントのプラスであった。

業種別では**建設業-18ポイント**（前期比-4、前年同期比+7）、**商業・サービス業-33ポイント**（前期比+24、前年同期比-2）、**機械金属製造業-16ポイント**（前期比-1、前年同期比-20）、**繊維製造業-13ポイント**（前期比+23、前年同期比+26）となっている。

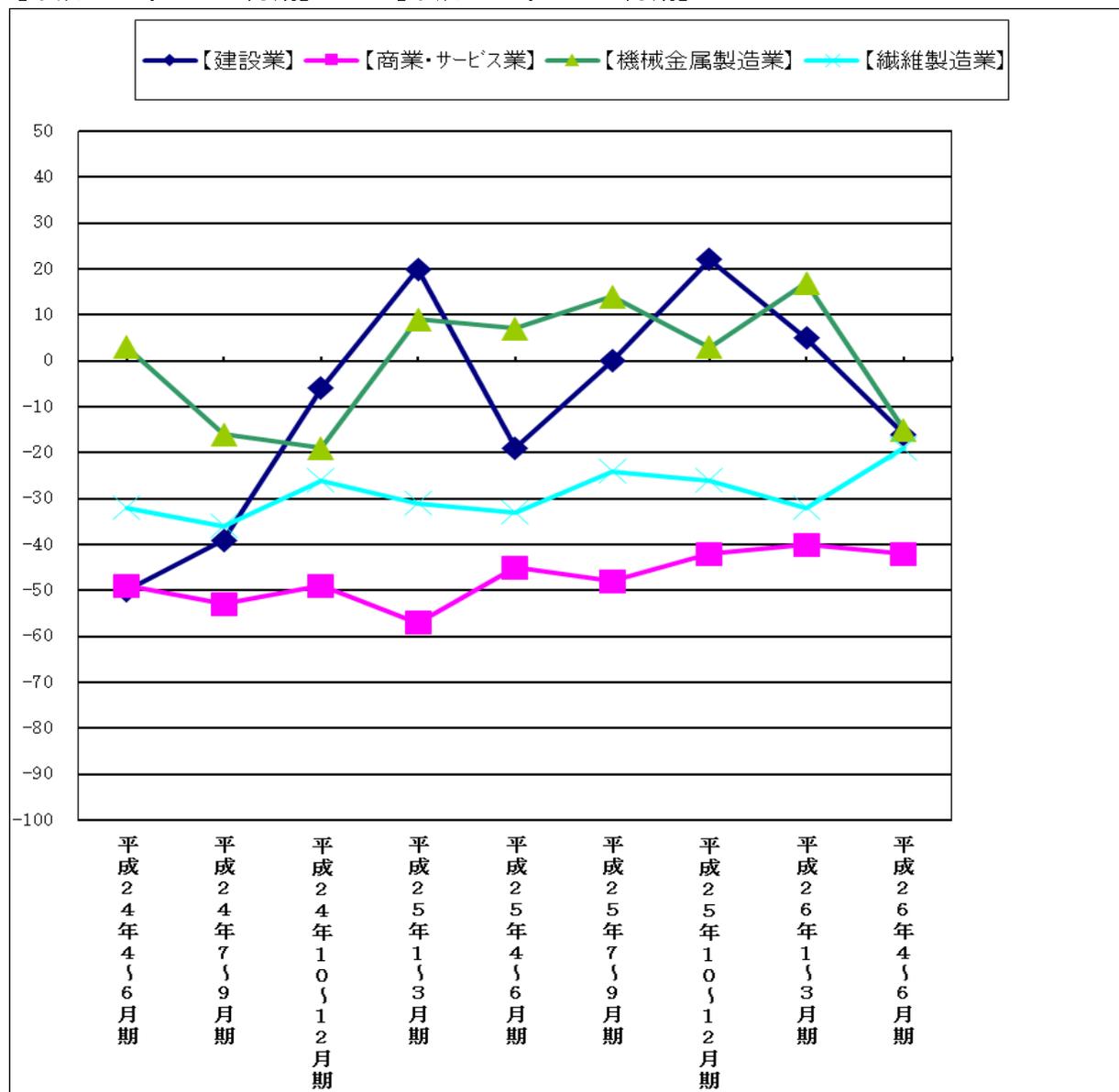
【経営上の問題点】

経営上の問題点としては、**建設業**では「請負単価の低下・上昇難」（13%）「下請単価の上昇」（11%）**商業・サービス業**では「需要の停滞」（19%）「消費者ニーズの変化への対応」（14%）、**機械金属製造業**では「製品単価の低下・上昇難」（22%）「需要の停滞」（15%）、**繊維製造業**では「需要の停滞」（21%）「製品単価の低下・上昇難」（17%）となっている。

業況DIの推移

	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
平成24年4～6月期	-50	-49	3	-32
平成24年7～9月期	-39	-53	-16	-36
平成24年10～12月期	-6	-49	-19	-26
平成25年1～3月期	20	-57	9	-31
平成25年4～6月期	-19	-45	7	-33
平成25年7～9月期	±0	-48	14	-24
平成25年10～12月期	22	-42	3	-26
平成26年1～3月期	5	-40	17	-32
平成26年4～6月期	-16	-42	-15	-19

〔平成24年4～6月期〕から〔平成26年4～6月期〕



2. 業種別の今期の業況・来期の業況予測

【建設業】

- 今期業況 **今期の業況D Iは-16**。前期比は-21、前年同期比は+3となった。
業種別では**建築・大工業 [-14]、土木業 [-50]、電気工事業 [±0]、その他 [-33]**であった。
- 来期業況 **来期業況予測のD Iは-18**。前期比で-4、前年同期比では+7ポイントであった。

【商業・サービス業】

- 今期業況 **今期の業況D Iは-42**。前期比は-2、前年同期比は+3ポイントであった。
業種別では、**卸売業 [-25]、小売業 [-44]、飲食業 [-20]、サービス業では [-53]**となっている。
- 来期業況 **来期業況予測のD Iは-33**。前期比+24、前年同期比では-2ポイントとなった。

【機械金属製造業】

- 今期業況 **今期の業況D Iは-15**。前期比では-32、前年同期比では-22ポイントであった。
業種別では、**鉄鋼業 [-25]、金属製品業 [+25]、一般機械器具業 [-20]、電気機械器具業 [+100]、輸送用機械器具業 [-25]、精密機械器具業 [+100]、プラスチック製造業 [-33]、その他 [-38]**となっている。
- 来期業況 **来期業況予測のD Iは-16**。前期比-1、前年同期比-20ポイントとなった。

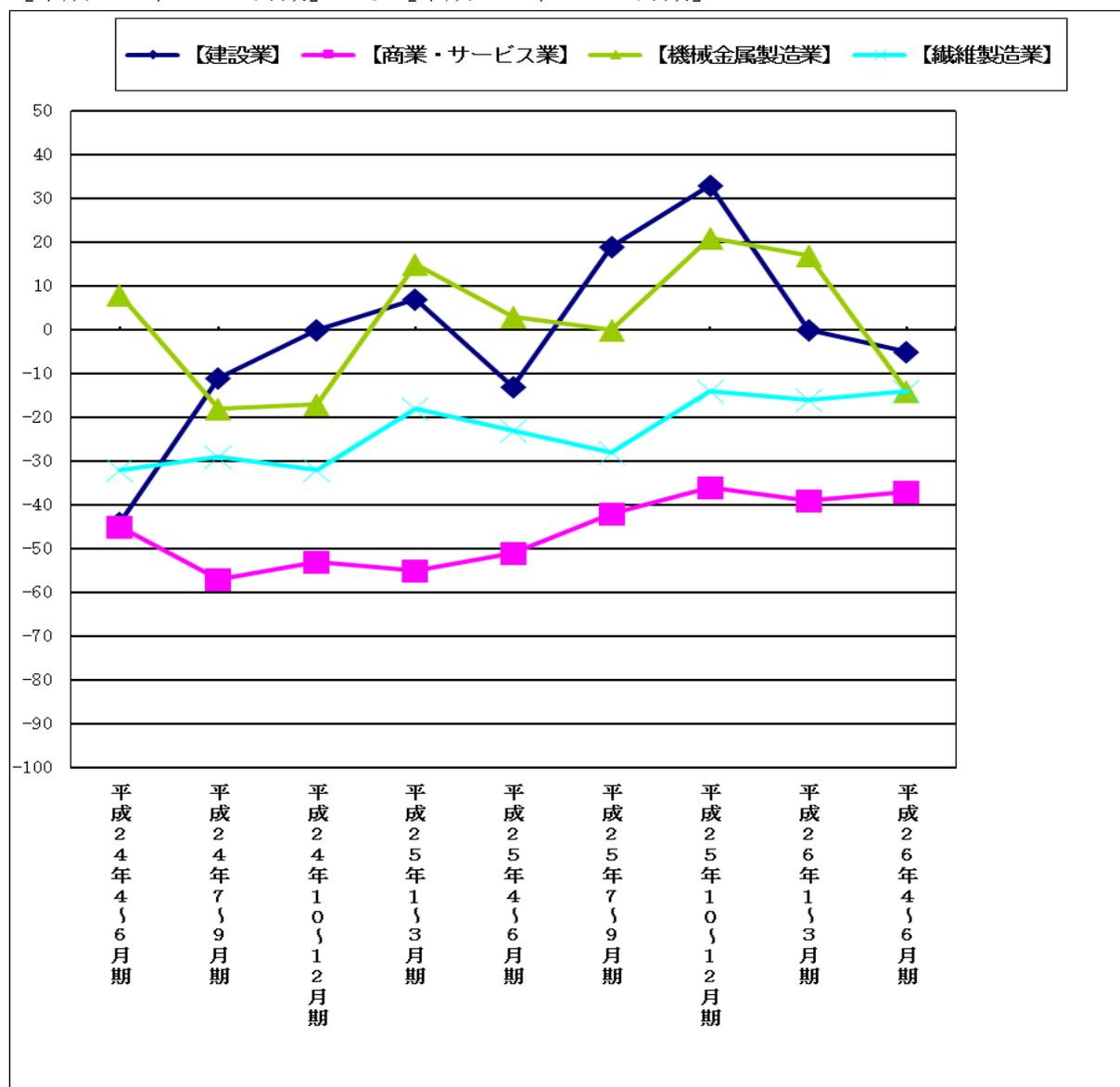
【繊維製造業】

- 今期業況 **今期の業況D Iは-19**。前期比では+13、前年同期比では+14ポイントであった。
業種別では、**捻糸業 [+50]、織物業 [±0]、染色整理業 [-25]、ニット・メリヤス業 [±0]、レース業 [-100]、縫製業 [-40]、刺繍業 [-50]**となっている。
- 来期業況 **来期業況予測のD Iは-13**。前期比+23、前年同期比+26ポイントとなった。

売上額（完成工事額）DI の推移

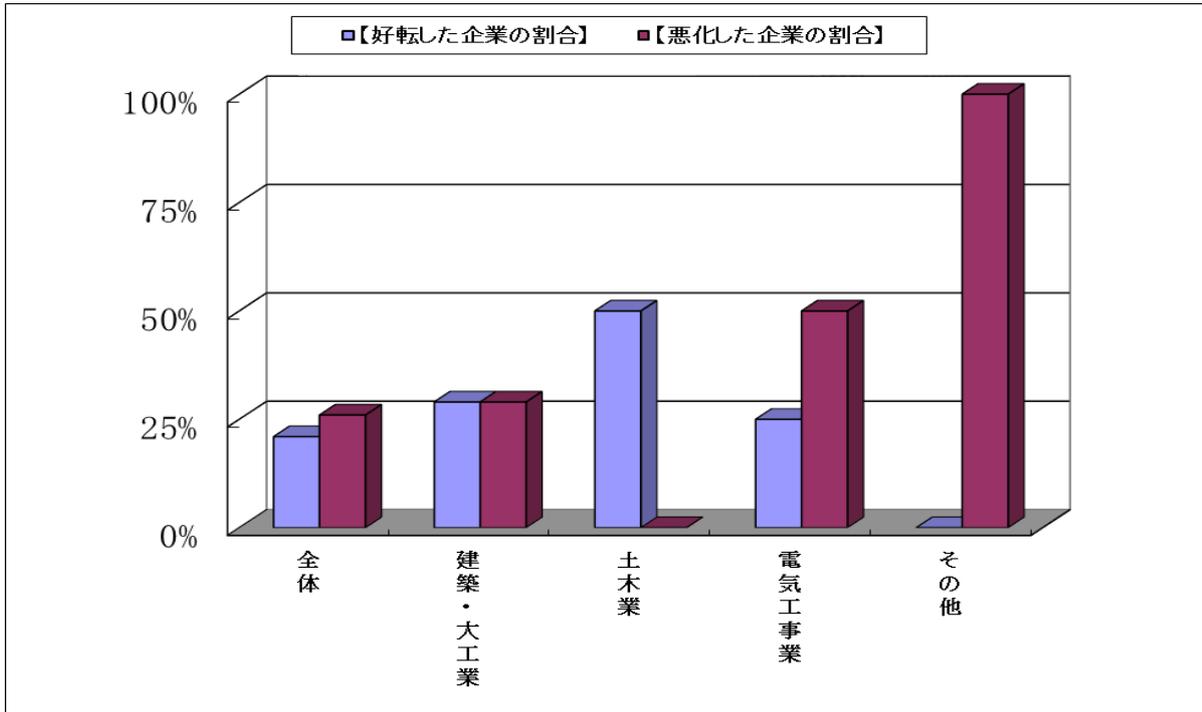
	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
平成24年4～6月期	-44	-45	8	-32
平成24年7～9月期	-11	-57	-18	-29
平成24年10～12月期	±0	-53	-17	-32
平成25年1～3月期	7	-55	15	-18
平成25年4～6月期	-13	-51	3	-23
平成25年7～9月期	19	-42	0	-28
平成25年10～12月期	33	-36	21	-14
平成26年1～3月期	±0	-39	17	-16
平成26年4～6月期	-5	-37	-14	-14

[平成24年4～6月期] から [平成26年4～6月期]

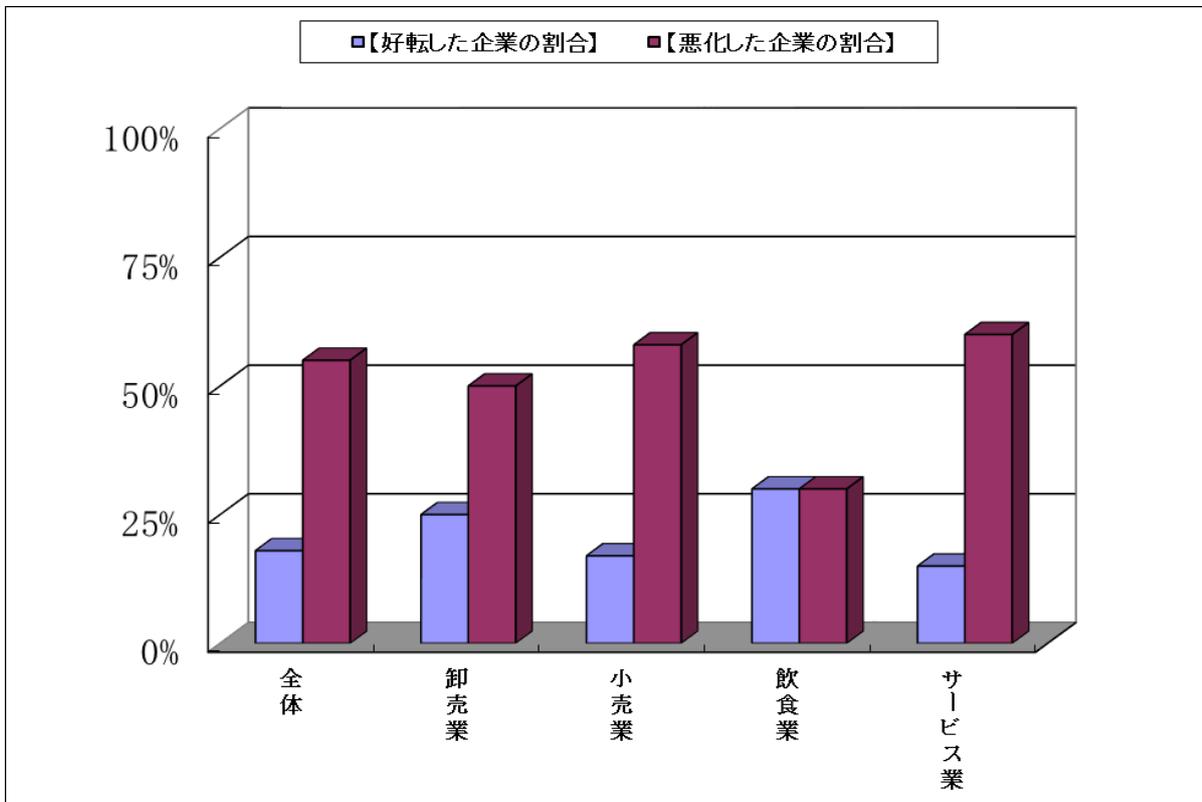


業種別売上額（完成工事額）の状況〈前年同期比〉

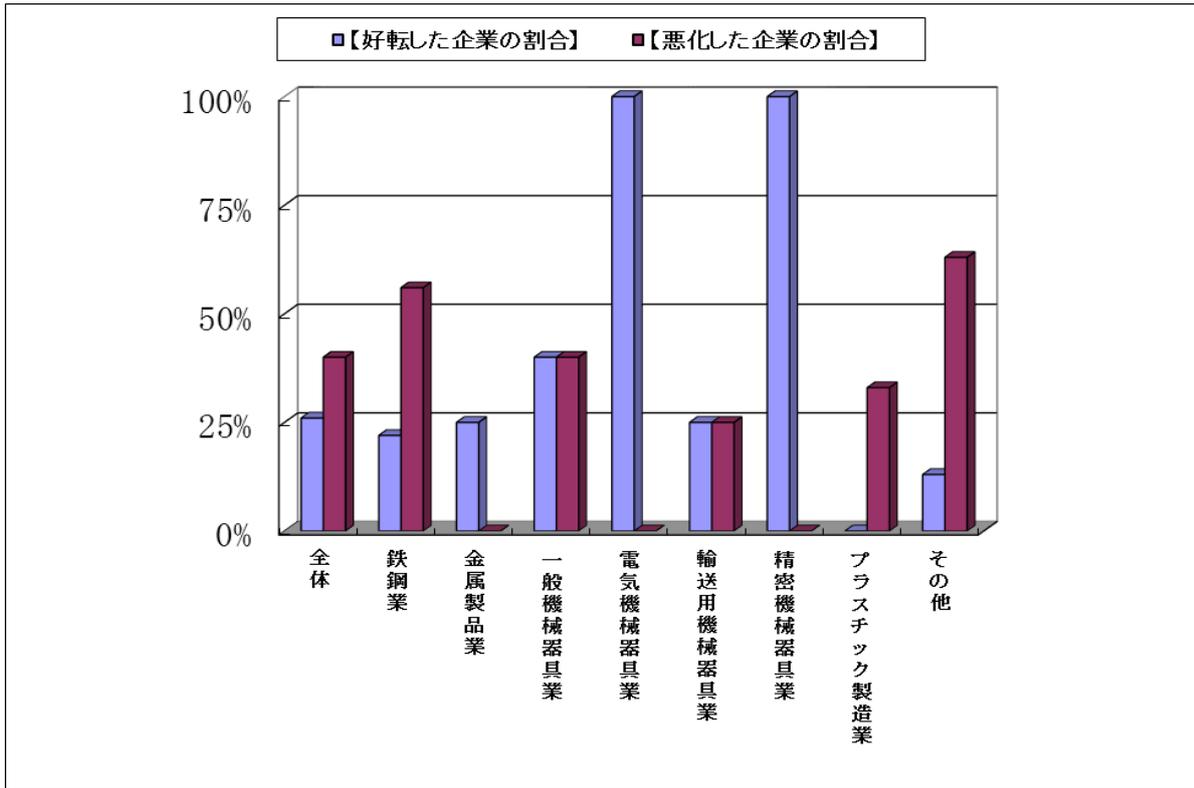
【建設業】



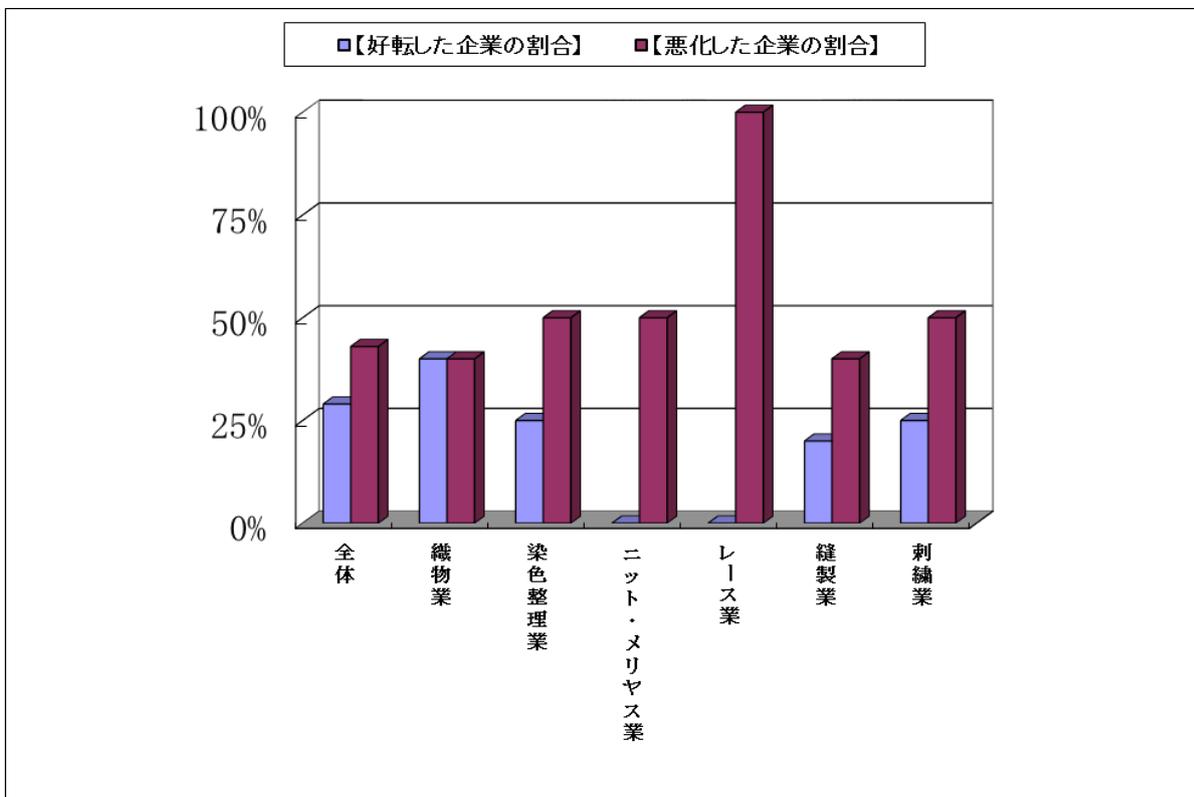
【商業・サービス業】



【機械金属製造業】



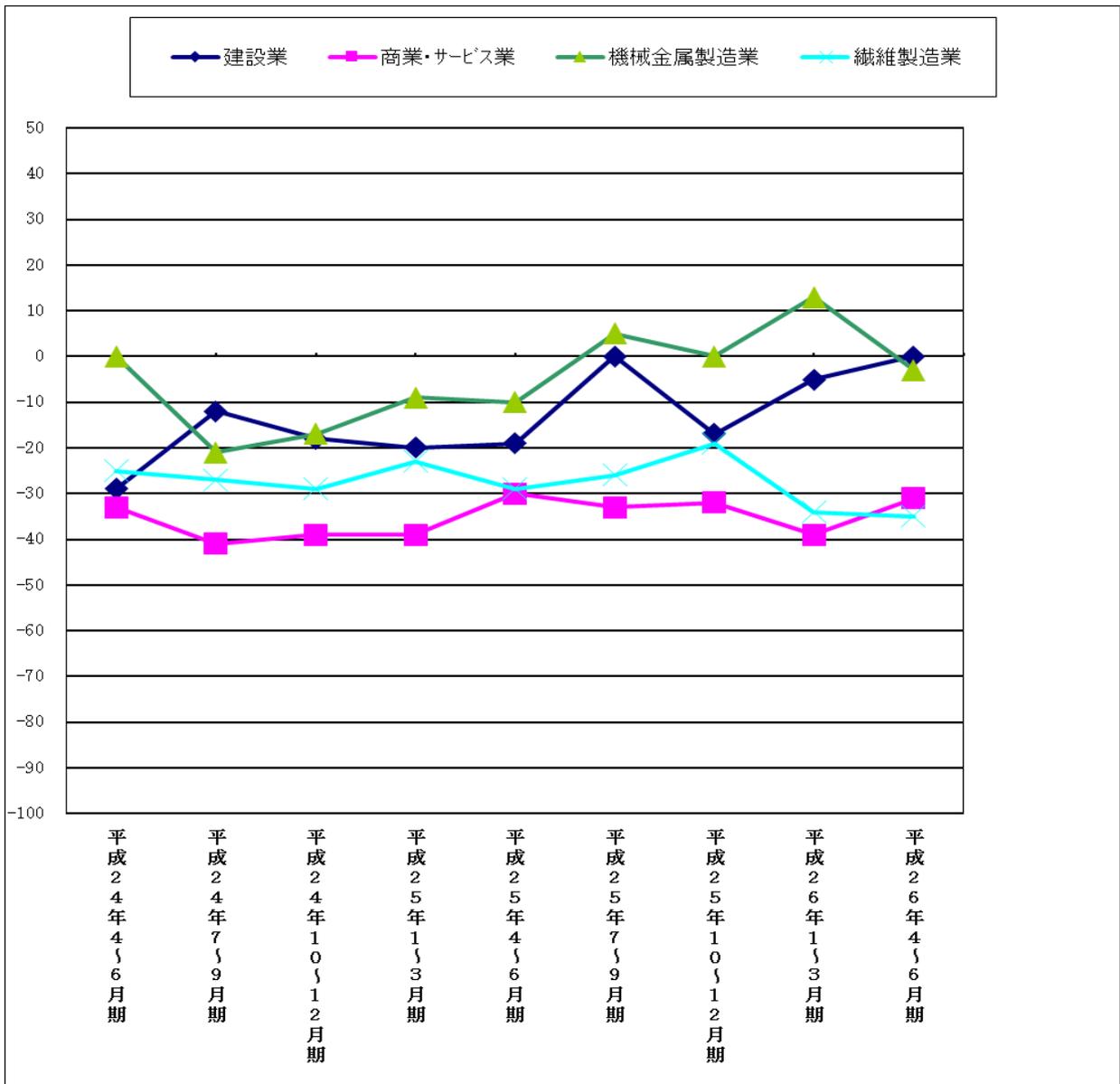
【繊維製造業】



資金繰りDIの推移

	建設業	商業・サービス業	機械金属製造業	繊維製造業
平成24年4～6月期	-29	-33	0	-25
平成24年7～9月期	-12	-41	-21	-27
平成24年10～12月期	-18	-39	-17	-29
平成25年1～3月期	-20	-39	-9	-23
平成25年4～6月期	-19	-30	-10	-29
平成25年7～9月期	±0	-33	5	-26
平成25年10～12月期	-17	-32	±0	-19
平成26年1～3月期	-5	-39	13	-34
平成26年4～6月期	±0	-31	-3	-35

[平成24年4～6月期] から [平成26年4～6月期]



今期直面している経営上の問題点

	1位(%)		2位(%)		3位(%)		4位(%)		5位(%)	
建設業	請負単価の低下 上昇難		下請単価の上昇		材料価格の上昇		民間需要の停滞		従業員の確保難	
	13.5		11.5		9.6		9.6		7.7	
前期	2位	11.5	2位	11.5	1位	13.0	4位	7.7	9位	0.9
前年同期	1位	21.7	3位	8.7	3位	8.7	2位	19.6	8位	4.3
商業・サービス業	需要の停滞		消費者ニーズの 変化への対応		購買力の他地域 への流出		材料等仕入単価 の上昇		大企業進出での 競争激化	
	19.6		14.6		12.1		11.6		8.0	
前期	1位	19.6	2位	14.6	3位	12.1	4位	11.6	5位	8.0
前年同期	1位	19.3	2位	14.2	3位	10.4	5位	9.0	6位	8.5
機械金属製造業	製品単価の低 下・上昇難		需要の停滞		原材料価格の上昇		生産設備の不足・ 老朽化		熟練技術者の 確保難	
	22.9		15.7		10.8		10.8		7.2	
前期	1位	19.1	2位	16.2	3位	14.7	4位	10.3	6位	5.9
前年同期	1位	23.0	2位	16.4	3位	14.8	4位	11.5	6位	6.6
繊維工業製造業	需要の停滞		製品単価の低下 上昇難		製品ニーズの変化 への対応		生産設備の不足 老朽化		原材料価格の上昇	
	21.1		17.1		11.8		10.5		7.9	
前期	1位	19.3	1位	18.2	3位	11.4	3位	11.4	5位	9.1
前年同期	1位	26.4	2位	20.9	3位	12.1	5位	7.7	4位	11.0

今期の従業員数D I

	建設業	商業・サービス業	機械金属製造業	繊維製造業
平成24年4～6月期	0	-1	0	-9
平成24年7～9月期	-13	-11	-6	-16
平成24年10～12月期	0	-8	-12	-6
平成25年1～3月期	7	-5	16	-6
平成25年4～6月期	6	-11	23	-10
平成25年7～9月期	6	-4	8	-9
平成25年10～12月期	-6	-9	16	-15
平成26年1～3月期	-5	-12	21	-14
平成26年4～6月期	22	-4	19	-12

事業所からのコメント（直面している問題点など）

【建設業】

- ・ 3月期までは、消費増税前なので民間需要があり受注があったが、5月に入り民間需要が減少、悪化している。
- ・ ガソリン価格と高速道路料金の高騰が問題。
- ・ 廃業等による下請業者の確保難、人件費の増、材料・燃料経費の増加により景況がやや悪化しているように思う。
- ・ 消費増税が伴うかけ込み需要が一段落し、その影響で4～5月の受注が大きく落ち込んだ。

【商業・サービス業】

- ・ 消費増税の4月以降、売上客数ともに半減している。なお5月後半以降やや上向いてきた
- ・ 今期は消費税8%の影響は大きかった。夏以降に期待したいと思う。アベノミクスの株価上昇は日本経済を生き返らせつつある。民主党政権の円高、株安の時代よりも経済活性化に貢献している。安倍長期政権に期待している。原発再稼働をして、電気代を安く利用できるように配慮して欲しい。ガソリンも税金を安くして、経済を活性化させて欲しい
- ・ 仕入先の廃業等による売れ筋商品の供給難
- ・ 客の高齢化と1人暮らしが多くなり、売上が減少になっていく。
- ・ 世間の好況とは違い、末端小売業は厳しい状態
- ・ 努力はしているつもりだが、いつやめるか考えている
- ・ スタッフの教育
- ・ 飲食業は二極化の傾向にある
- ・ 人件費の増加。店主高齢化に伴い客数が減少

【機械金属製造業】

- ・ 高齢のため、廃業を考える
- ・ 受注変動リスクへの対応
- ・ 日本国内の市場縮小

【繊維工業製造業】

- ・ 仕事は増える予定で従業員も増やしたいが、仕事ができるようになるまで最低3ヶ月はかかる。その間の人件費が捻出できない
- ・ 利幅が少ない
- ・ 都市と地方経済の差が大きくなっている。国力を上げる為とはいえ、輸出型大企業の増益、賃金の上昇による消費増加が報じられているが、大多数は都会のデータであって、今、更に落ち込んでいる地方をどうするのか？
- ・ 事業承継、資質向上

【その他の製造業】

- ・ 新築での和室の減少ならびに世間全般の豊離れにより業界は大変苦しんでいる。その上消費税アップでダブルパンチ。